

「能登を探る環境プロジェクト」

1 趣旨

能登の自然・風土・人の視点から環境について考える。また、地域に密着したプログラムの実践により、主体的に環境問題に取り組む意欲や創造性・感性などを育み、多元的に環境を捉える素養を身につける。

2 ねらい

- ・ 環境保全や自然との共生に向けた活動のリーダー的人材の育成を目指す。
- ・ 広い視点で斬新なプログラムを生み出す企画力の育成を図る。
- ・ 地域に密着したプログラムの実践により、人々の知恵や生き方を交流・体験・知で学び豊かな心を育む。



3 活動内容

- (1) 期 日 8月4日(金)～6日(日) (2泊3日)
- (2) 参加者 23名(大学生⑧, 教員③, 社会教育指導者②, 一般社会人⑩)
- (3) 講師 大学教授2名, (財)日本自然保護協会, 日本考古学協会, 能登国分寺展示館, 保育士
- (4) 主な活動内容

フィールドワークとして、一日目は柴垣海岸で能登の海水を利用した土器製塩や地引き網などを体験した。二日目は七尾市の「沢野ごぼうの里」で地域住民の指導によるゴボウ掘りを体験した。収穫したゴボウが入った料理や特産野菜と山菜を使った漬物などを食べながら、地元住民と交流を深めた。また、能登に伝わる民話や講話を聞き、夜にはキリコ祭りを見物し、能登の歴史や文化に肌でふれ、能登への理解を深めた。最終日はワークショップと講演を通して、環境教育に取り組むための新たな視点を探した。



4 成果と課題

- (1) 成果
 - ① 環境を自然環境だけでなく多面的に捉える事業を展開できた。特に地域密着型のプログラムの実践により、生活と文化の視点から見た環境について学ぶことができた。
 - ② 参加者に感動や刺激を与え、環境教育に取り組む意欲を喚起することができた。
 - ③ 参加者の事業に対する満足度は非常に高かった。
- (2) 課題
 - ① 自分でプログラムを選んで組み合わせるモジュール方式のプログラムの開発。
 - ② 地域住民との継続的な連携・協力。



「あなたもまちづくりプランナー」

1 趣旨

北陸の自然・文化を活用したまちづくりの実践を「見る・触れる・体験する」ことを通して、地域のよさを活かせる企画力やコーディネート力を高める。



2 ねらい

- ・ まちづくりにかかわる企画力・コーディネート力を育成する。
- ・ 地域プログラムを体験することにより、地域づくりへの興味・関心を引き出す。
- ・ 参加者同士や講師とのネットワークをつくり、今後へつながるように支援する。



3 活動内容

- (1) 期 日 10月13日(金)～15日(日) (2泊3日)
- (2) 参加者 17名(教員②, 社会教育指導者④, 一般社会人⑪)
- (3) 講 師 金沢大学客員教授, NPO法人エコ・コミュニケーションセンター, 環境教育ネットワークとやまエコひろば, お茶の北島屋, 志賀町とぎ実験農場, 所司原村づくり推進協議会, 羽咋市役所農林水産課
- (4) 主な活動

1日目は、コミュニケーションづくりとして、「インタビューゲーム」を行い、自分の地域について振り返った。川と絵本づくりの実践事例の講義と翌日に行う体験プログラムの紹介(4カ所)をした。

2日目は、七尾市の一本杉通り, 志賀町のとぎ実験農場, 宝達志水町の所司原地区, 羽咋市のUFOとブランド米の取り組みを現地に行き, 見て・触れて・体験して, 先進的な地域プログラムについて学んだ。午後からは, グループディスカッションを行い, 個別にまちづくりプランを考えた。

3日目は, まちづくりプランの発表と「地域づくりにキメ手はあるのか?」と題して講演を行った。

4 成果と課題

(1) 成 果

- ①「プレゼンテーション⇒実地見学⇒実際体験⇒企画づくり」という段階を経た企画づくりと相互学習を通して, 参加者の感想からも見られるように「企画力」を高めることができた。
- ②講師7名を迎え, 様々な方面から地域プログラムについて聞くことができた。また, 2名の講師は事業全体にかかわってもらうことで, 総合的に参加者支援を行うことができた。
- ③共通した課題をもつ参加者同士や講師とのネットワークを広げることができた。



(2) 課 題

- ①参加者確保のための広報を検討する。
- ②地域プログラムづくりを日常的に行っている参加者は少なく, 企画力に差があり, 今後, 個のレベルに応じた内容にするか, コース別に行う等の対策を検討する。